

# 公立図書館と連携した小学校における学校図書館教育 School Library Education in Elementary School in cooperation with Public library

長谷川 栄子・松田 智子

Eiko HASEGAWA, Tomoko MATSUDA

## 要旨 (Abstract)

文部科学省が、第4次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」をまとめ、新学習指導要領においても学校図書館の利活用の重要性を示している。学校図書館教育を充実させ、子どもたちの読書推進を図るには、公立図書館と連携した取組が効果的だ。

そこで、学びの場を広げ、公立図書館と連携した読書推進活動や学習指導を構想し、学校図書館教育の充実を図ろうと試みた。①子どもたち同士が交流できる学びの場を設定すること、②公立図書館と連携した学習単元を構想すること、③司書教諭や学校司書の力を引き出すこと、を通して読書推進の活性化を図ることが重要である。

キーワード：(公立図書館との連携) (読書活動の推進) (学校図書館の利活用)

## I. はじめに

文部科学省第4次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」の「関係資料」(平成30年4月)は、子どもたちを取り巻く読書環境は、改善が進んでいるとはいえ、いまだ不十分な点があることを示している。平成24・28年度学校図書館の現状に関する調査(文部科学省)によると、表1に示すように平成23年度末と比較して多くの都道府県が改善傾向にあるが、全体としては、未だ達成が十分でない状況にある。このような状況から、①授業で図書を活用したいと教員が構想しても、必要な図書が十分揃えられない、②子どもたちが自ら手に取って読みたいと思う図書がない、などの課題が浮かび上がってくる。

また、司書教諭の発令状況は、表2のように12学級以上のほとんどの学校で行われており、11学級以下の学校においても増加傾向にある。但し、司書教諭は、学級担任の業務を行いながらの校務となり、さらに読書推進したいが、十分とは言えない状況

【表1 学校図書館図書標準の達成状況(公立)全国平均】(単位%)

校種	平成23年度末	平成27年度末
小学校	56.8	66.4
中学校	47.5	55.3

【表2 司書教諭の発令状況(国公立)】(単位%)

校種	調査年月	全体	12学級以上	11学級以下
小学校	平成24年5月	64.6	99.6	23.9
	平成28年4月	68.0	99.3	28.7
中学校	平成24年5月	61.2	98.4	27.4
	平成28年4月	65.0	98.3	33.5

の学校もあるだろう。小規模校になれば、他の校務もさらに司書教諭が担うことになるので、課題が増す。

そして、学校司書は、表3に示すように60%前後の学校で配置されている。小中学校においては、増加傾向にある。

ただ、約100%配置の県から約6%配置しかない県まであり、その格差は大きい。また、公立の小中学校において常勤の学校司書を配置している割合は、12.1%、中学校では、13.6%に過ぎない。

このような読書環境の中、学級担任が読書推進をするには、努力を必要とする。このような課題を解決して学校図書館教育を充実させるためには、公立図書館との連携が効果的である。

次に、筆者が助言して行った具体的な授業実践事例を提案する。

【表3 学校司書の配置状況（国公立）】

校種	調査年月	学校数	配置学校数	割合（%）
小学校	平成24年5月	20,980	10,037	47.8
	平成28年4月	19,945	11,803	59.2
中学校	平成24年5月	10,495	5,056	48.2
	平成28年4月	10,255	5,969	58.2

## II. 公立図書館と連携した授業

芦屋市立図書館の協力を得て図書を貸借し、図書館長にブックトークのモデルを示してもらい、民話や昔話を読んでブックトークを行った第3学年国語科授業を紹介する。

### (1) 単元の構想

①単元名 しょうかいします！お気に入りの話～ブックトークで世界のみん話・昔話のみりよくを2年生に伝えよう～

#### ②教材

- i 教科書教材・・・「三年とうげ」（国語3年 光村図書）
- ii 補助教材・・・日本・世界の民話

#### ③単元の指導目標

- i 民話や昔話の面白さを見つけながら、進んで読書しようとしている。
- ii 場面の移り変わりを捉え、登場人物の気持ちの変化や情景を想像することができる。
- iii 物語を読んで考えたことを発表し合い、一人ひとりの感じ方について違いがあることに気付くことができる。
- iv 登場人物の気持ちや様子を表す言葉に着目し、表現するための語句の量を増やし、紹介文に使うことができる。

#### ④単元の評価規準

- i いろいろな国の民話や昔話があることを知り、進んで読もうとしている。
- ii 場面の移り変わりを捉え、登場人物の様子や気持ちの変化を読んでいる。
- iii 民話や昔話のおもしろさを味わいながら読み、それが伝わるように、友だちに紹介している。
- iv 登場人物の気持ちや様子を表す言葉を使って紹介している。

#### ⑤指導に当たって

朝の会で、日番がスピーチをし、聞き手の子どもたちは、自分と繋げた感想を交えながら質問をする練習を行った成果が表れ、発表することに苦手意識を持つ子どもは少なくなってきた。

また、読書も好きで、図書の時間や読書タイムを楽しみにしている。季節にあった本や、学習に関連した物語の本などの読み聞かせを行ったり、教室にお勧めの本を並べたりすることで、様々な本に出会う機会を作ってきた。そのため、様々なジャンルの本を読むようになり、進んで図書館を利用するようになる子が少しずつ増えてきた。9月には、夏休みに書いた読書感想文に選んだ本の紹介活動を行ったり、前単元「すがたをかえる大豆」では、『食べものひみつブック』を書くために図書室の資料を使って調べ学習活動を行ったりしてきた。

国語の「読むこと」の学習に関しては、低学年では、登場人物の行動を中心に場面の様子を読むことを学習してきた。民話としては、1年生で「おおきなかぶ」、2年生で「スーホの白い馬」を学んでいる。三人称の全知的な視点も同じである。これらに共通する特有の語りの言葉を楽しみながら、また昔話として、1年生で「おむすびころりん」や「まのいりょうし」、神話として2年生では「いなばの白うさぎ」など語り継がれてきた話を学習してきた。また、2年生では、おすすめの本の紹介カードを書く活動を行った。

3年生では、さらに登場人物の気持ちや性格、情景を、場面の移り変わりに注意しながら読むことを取り上げて学習している。1学期の「きつつきの商売」では、登場人物の野うさぎや野ねずみ、2つの場面の様子の違いに着目して物語を読んだ。「もうすぐ雨に」では、出来事に気を付けて、登場人物の行動や気持ちに着目し、それぞれの場面を、①始まり②出来事が起こる③出来事が変化する④結び、の4つの組み立てと対応させて読んだ。そして、この起承転結の構成は、多くの物語で使われていることを学んだ。2学期、「ちいちゃんのかげおくり」の学習でも、起承転結の構成であることと共に、ちいちゃんが「かげおくり」をする2つの場面を比べ、その移り変わりに注意して物語を読んだ。また、本単元でも2つの場面で「ころぶ」という行為が出てくるが、各場面の比較を通して、情景の違いや登場人物の気持ちの変化を読んだり、登場人物の性格や心情を想像し、イメージを膨らませて読んだりすることになる。

「三年とうげ」は、朝鮮半島に伝わる民話である。民話独特の語り口に加え、言い伝えや歌のリズムが楽しめる。外国の雰囲気が、挿絵からも伝わってくる。「ため息が出るほど」よい眺めの峠が黄色を基調としたほのぼのとしたタッチで描かれている。朝鮮半島の農村の雰囲気を存分に表現した挿絵と共に、イメージを膨らませた。ちょっとした機転で不幸を幸せに転じた、とんちの話の側面もあり、昔の人々の生きる知恵が感じられる。この物語は、場面がテンポよく展開し、登場人物の言動から人柄を捉えることができるので、場面の移り変わりに注意しながら登場人物の気持ちの変化を読むことに適している。また、表現上の特色として、「すつとんで」「はね起きて」「真っ青」など、工夫された表現が効果的に使われ、人物の様子や行動を生き生きと描写している。

物語の起承転結の構成、①始まり（場の設定）②出来事が起こる③出来事が変化する④結び（出来事が解決する。後日談）、の学習が、並行読書する民話の読みにも繋がる教材である。

本単元の指導にあたって、小学校学習指導要領国語第3学年及び4学年の「C読むこと」の指導事項「エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりとは結び付けて具体的に想像すること。」「カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。」を指導していく。本単元で取り上げる言語活動は、「ブックトークで世界の民話・昔話を紹介する」とする。

一次では、教師が民話・昔話にちなんだブックトークを行うことにより、子どもたちの興味・関心を喚起する。並行読書リストを示し、民話・昔話への読書意欲を高めるようにする。そして、『しょうかいします！お気に入りの話～ブックトークで世界のみん話・昔話のみりよくを2年生に伝えよう～』という学習課題を協議し、学習のゴールの設定から、そこに至るまでの経過までをしっかりと見通しながら、学習計画を立てる。

二次では、「三年とうげ」の叙述に基づいて内容を豊かに読むことにする。子どもたちには、「三年とうげ」がどんな場所なのか、どんな登場人物が出てくるかに着目させたら、「起承転結」の場面の展開をとらえさせる。最後の感想の交流を通して、面白いと思ったところの違いに着目させ、読みを深めていきたい。また、「三年とうげ」は、同じような表現や同じような場面が繰り返され、その積み重ねの工夫が読者である子どもたちを引き付けるといふ民話独特の構造を持っている。「三年とうげ」で得た紹介の観点を持ってから、他の世界の民話や昔話に読み広げ、「おもしろい」と思うところを紹介する発展的な活動に取り組んでいきたい。

三次では、2年生へのブックトーク、「しょうかいします！お気に入りの話」の開催に向けて学習を進める。具体的には、まず、自分がお勧めしたい民話・昔話を選び、その話からイメージするテーマを考える。次に、3人のグループで、各自の選んだ本からイメージするテーマを紹介し合い、グループでつながるテーマを考える。そして、グループでブックトークの内容を考える。ブックトークのシナリオ作りでは、「題名」「作者」「登場人物」「あらすじ」「おもしろいところ」を書く。おもしろいところには、「根拠となる叙述の引用」と「説明と理由」を書かせたい。また、芦屋市立図書館よりゲストティーチャーを招き、ブックトークを聞かせてもらい、より本の魅力が伝わるブックトークの技を学び、各グループのブックトークに活かしていきたい。最後に、各グループが、お勧めの本を2年生に紹介する。質問や感想を交流することで、より深い読みにつなげていきたいと考えた。さらに、考え方の違いにも気付くことができるものと思われる。

友だちとの練習、助言のし合い、2年生への紹介活動を通して、学習への達成感へつなげ、今後の学習での「読む」力や読書への意欲につなげていきたい。

#### ⑥ 単元の授業過程（読むこと全13時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
一	1	①今までに読んだり聞いたりした民話や昔話を振り返り、感想を交流する。 ・ おおきななぶ ・ スーホの白い馬 ・ ももたろう ・ うらしまたろう ②民話・昔話のブックトークを聞き、感想を話し合う。	・ これまでに読んだ作品を想起させ、面白かったところや、心に残ったことについて自由に発表させる。 ・ 教師が用意した昔話のブックトークを行い、民話や昔話への関心・興味を喚起し読書への意欲を高める。	・ いろいろな国の民話や昔話があることを振り返り、進んで学習に取り組もうとしている。〈発言・ワークシート〉
	2	③学習課題「しょうかいします！お気に入りの話～ブックトークで世界の民話・昔話の魅力をも2年生に伝えよう～」を協議設定し、学習計画を立てる。 ④「三年とうげ」の範読を聞き、あらすじをつかみ、初めて読んだ感想を書く。 ⑤民話・昔話の並行読書を始める。	・ 民話や昔話の魅力を考えながら読むことを意識させる。読む目的を明確にさせる。 ・ 挿絵などから「三年とうげ」が外国の民話であることを押さえさせる。	・ いろいろな国の民話や昔話があることを知り、進んで学習に取り組もうとしている。〈発言・ワークシート〉 ・ あらすじを捉えている。〈発言・観察〉
二	3	⑥感想を交流する。	・ 一人一人の感じ方の違いに気付かせる。	
	4	⑦「三年とうげ」の組み立てを考えながら読み、「はじめ」「出	・ 主人公の行動やおじいさんの	・ どのように物語が組み立てら

	<p>来事が起こる」「変化する」「むすび」という組立てになっていることを確かめ、あらすじをまとめる。</p> <p>⑧様子を詳しくする言葉を取り上げて、その効果を考える。</p>	<p>様子や気持ちの変化から組み立てを捉えさせる。</p> <p>・調子のよい表現に着目させる。</p>	<p>れているかを考え、整理しながら読んでいる。〈発言・ワークシート〉</p> <p>・工夫された表現に着目し、語句を増やしている。〈発言・ワークシート〉</p>	
5	<p>⑨おじいさんの様子を表す叙述から、気持ちの変化に着目し、話の展開をより明確にさせる。</p>	<p>・気持ちの変化がわかる語句に赤線を引かせる。</p> <p>・情景描写に青線を引かせる。</p>	<p>・場面の展開にそって、おじいさんの気持ちの変化を捉えている。〈発言・ワークシート〉</p>	
6	<p>⑩「三年とうげ」を読んで、面白いと思ったところや、に残った言葉や文をワークシートに書き、交流する。</p>	<p>・叙述に基づいて書かせる。</p> <p>・他者との違いに気付かせ、聞き手の反応を促す。</p>	<p>・物語を読んで感想を交流し合い、感じ方の違いに気付いている。〈発言・ワークシート〉</p>	
三	7	<p>⑪ブックトークは、どのように本を紹介することなのかを確かめる。</p> <p>⑫「3年とうげ」を取り上げて、どんなテーマになるかを考える。</p>	<p>・ブックトークについて確認させる。</p> <p>・イメージしやすいようにマップにまとめさせる。</p>	<p>・内容、登場人物、場面の展開などの視点から「3年とうげ」を読み深め、ブックトークのテーマを見つけている。〈発表・ワークシート〉</p>
	8	<p>⑬自分が選んだ本は、どんなテーマになるかを考え、マップに表し、交流する。</p> <p>⑭グループでのテーマのつながりを見つける。</p>	<p>・ホワイトボードを3分割し、各自のテーマを記入させて、交流に使用させる。</p>	<p>・内容、登場人物、場面の展開などの視点から物語を読み深め、自分の選んだ本のブックトークのテーマを見つけている。〈発表・ワークシート〉</p>
	9	<p>⑮芦屋市立図書館よりゲストティーチャーを招き、ブックトークを聴く。</p> <p>⑯ブックトークのテーマ、グループを確認する。</p>	<p>・図書館司書のブックトークを聴くことにより、本の魅力が伝わるブックトークの方法を見つけさせる。</p>	<p>・ブックトークの仕方を、学ぼうとしている。〈発言・ワークシート〉</p>
	10	<p>⑰ブックトークの手順を確かめる。</p>	<p>・2年生に向けてのブックトークであることを確認させる。</p>	<p>・分かりやすいブックトークにするためのシナリオを作っている。〈ワークシート〉</p>
	11	<p>⑱発表の内容を分担し、シナリオを作る。</p>	<p>・テーマに沿って選んだ民話・昔話の題名・作者・登場人物・登場人物の気持ちの変化・あらすじ・おもしろいと思う場面とその理由についてワークシートにまとめさせる。</p>	
	12	<p>⑲ブックトークの練習をし、互いに助言し合う。</p>	<p>・互いに聞き合いながら、ポイントを基に改善させる。</p>	<p>・相手意識を持って、分かりやすくブックトークしようと取り組んでいる。〈発表〉</p>
	13	<p>⑳2年生に向けてブックトークを行う。</p>	<p>・声の大きさや言葉遣いに気をつけて発表させる。</p>	<p>・民話や昔話のおもしろさを味わいながら読み、それが伝わるように、2年生にブックトークしている。〈発表〉</p>

	②単元の学習を振り返る。	・ 民話から、良さやおもしろさを感じる事ができたか振り返る。	・ 読書の楽しさに触れて振り返りを書いている。〈ワークシート〉
--	--------------	--------------------------------	---------------------------------

⑦授業の成果

並行読書の図書を選書する際には、芦屋市立図書館の司書の助言を得て選書の幅が広がった。子どもたちは、館長のブックトークで短編集というジャンルを知り、選書の選択肢が広がり、読書の抵抗感が薄らいだ子もいた。十分な図書を揃えることができたので、どの子どもも気に入った本を使用することができ、意欲的に学習し、2年生にブックトークを披露することができた。ブックトーク後、2年生が自然に紹介された絵本を手に取り、読書に誘うことができて良かった。

ワークシートの使用によって、自分の選んだ絵本についてテーマに関するキーワードを見つけることができた。グループ内で、3冊の本のつながりをみつけ、シナリオを書く時に3冊をつなぐ言葉として記述できた。

⑧授業の課題

初めてのブックトークの経験だったので、テーマを見つけるというよりは、キーワードを捉えた段階で、テーマといえるような、深まった関連性を見つけることまでには至らなかった。教師が考えた「つながり＝テーマ」ではなかった。学校全体で紹介活動の系統性を持たせて指導したい。



【読書した民話を世界地図に表す】



【グループで繋がりを相談する】



【捉えたつながりの交流】



【図書館長によるブックトーク】



【3年児童によるブックトーク】



【ブックトーク後の2年生】

以上、国語科の授業を紹介したが、次のような他教科・領域の授業も考えられる。

学年	教科	単元名・学習の概要
第2学年	生活科	校区に公立図書館がある場合、見学対象にする。お話の部屋で読み聞かせを体験し、図書を借りて帰る。

第3学年	社会科	「公立図書館を見学して、ひみつをリーフレットで紹介しよう」 公立図書館のバックヤード、書庫、点字作業場、目の不自由な方向への朗読を録音する場所などを見学し、リーフレットで2年生に紹介する。新聞にまとめて書き表すのもよい。見学の際に写真を撮り、リーフレットや新聞に掲載する。
第3学年	国語科	「3年1組のお話の部屋を作ろう」 公立図書館の見学の際、お話の読み聞かせや語りを体験させる。公立図書館や学校図書館で借りた本を読み聞かせしたり、一部を語らせたりして異学年交流させ、昼休みなどの時間にお話の部屋を運営させる。
第4学年	総合的な学習	「公共施設のバリアフリーについて調べ、マップを作ろう」 バリアフリーについて書かれた図書を読み、調査の観点をクラスで共通理解する。グループで公共施設のバリアフリーについて調査し、マップにまとめる。

学校図書館教育の年間指導計画に基づいて、国語科に限らず、他の教科・領域においても学校図書館を活用した授業実践を行う。学校図書館を読書センターのみならず、学習センターや情報センターとして位置付けた活用を施行することが、子どもたちの主体的・対話的で深い学びになるのだ。

### Ⅲ. 公立図書館と連携した学校図書館教育の充実

次に、学校図書館教育を充実させるために、公立図書館とどのように連携できるかを探ろう。

#### (1) 公立図書館からの貸借によって

##### ① 並行読書や調べ学習が充実する

テーマを設定した読書、同一作家の作品を読み進める読書、決まったジャンルの読書など、子どもたちの人数に応じた冊数を確保できるので、効果的である。また、公立図書館の司書に事前相談すると、本を準備してくれたり、教員が気付かなかった本を追加してくれたりするので、とても参考になり、助かる。

##### ② お薦めの本のコーナーが充実する

勿論、学校図書館の蔵書を使ってもできるのだが、公立図書館から借りた図書を使うと多様な内容やテーマで展示できるので、効果的だ。例えば、写真集、装丁の美しい本、表紙絵が違う同じ物語、小学校で扱う古典の様々なレベルの本などを扱うことができる。

##### ③ 学級文庫が充実する

子どもたちは、給食が配膳されるまでの待ち時間や雨の時の休み時間など、隙間の時間に読書ををすることが好きである。日常の読書を推進するには、古くなった学級文庫を刷新するのが効果的だ。学校図書館の蔵書を各学級に保管場所を変え、各学級に配る冊数を決めた後、人気本、新刊本、推薦本を各3分の1の割合で各学級に配置する。期間を決め、学年内で交換する。そうすると、学校図書館の書棚が空くので、公立図書館から借りた本を面立てして、配置する。そして、子どもたちの読書意欲を喚起することができる。

#### (2) 公立図書館に来館させる仕組みづくり

##### ① 読み聞かせボランティアの絵本探し

保護者が、朝の読書の時間に絵本の読み聞かせを行っている学校は、数多い。学校の図書館の蔵書に飽き足らず、公立図書館で選書される保護者がほとんどである。間接的に子どもたちは、恩恵を授かっている。読み聞かせに使用した絵本は、リスト化されているので、好評だった絵本を学校で購入することもできる。

##### ② スタンプ収集

芦屋市教育委員会は、学校図書館を利用する時間や家庭での読書で使うために読書ノートに低学年用と高学年用を作成し、市立小学校に在籍する全児童に配布している。小学校低学年用、高学年用がある。読書の手掛かりになったり、読書の幅を広げたりするのに役立っている。その読書ノートには、芦屋市立図書館に行くと本の虫のキャラクターのスタンプを押すページがあり、公立図書館へ行く楽しみともなっている。

### ③学習成果物の展示

国語科で作った図書のポップや帯、ポスターの掲示、図書館見学で作成したリーフレットや新聞の掲示などを行い、小中学校生を公立図書館に誘う工夫が必要だ。

### ④貸出業務体験

兵庫県下の中学校のトライやるウィーク期間中、公立図書館で職業体験をする機会を与えられた中学2年生もいる。小学校においては、学級の図書係、高学年の図書委員会は、カウンターで貸出業務ができるのでとても人気がある。公立図書館でも夏休みの期間中、小中学生を対象にして子ども司書を募集し、貸出業務や図書の整理などをさせてみてはどうだろうか。図書館司書の専門性の高さに気付き、図書委員の活動の活性化につながるのではないだろうか。

## V. 終わりに

以上、公立図書館と連携した学校図書館教育について検討してきた。相互の連携の目的は、何よりも子どもたちが、自ら本を手にとって読書に親しむことにある。その効果は、①子どもたちを主体的な読者にする、②他者との感じ方の違いに気付き、本への興味を持つ、③学校組織として、学校図書館教育の充実を図る気運が生まれる、などに表れた。これらを一時的な効果にとどめることなく、以下のような視点から継続的な取り組みが望まれる。

### (1) 子どもたち同士が交流できる学びの場を設定する

国語科におけるブックトークの実践を示したが、これ以外にもポップや本の帯、ポスター作りが行える。また、それらの成果物を学校図書館の書架においたり、対応する図書に付けたり、掲示したりして活用することによって、読書の楽しさを伝えることができる。他者との気付きを十分に楽しませたい。

図書委員会やペア活動で読み聞かせをすると、互いに穏やかな満ち足りたひと時を過ごすことができる。読書の楽しさだけでなく、思いやりの心も育つ時間である。図書委員会が作った栞を渡す活動においても、自然な読後感想交流が生まれてほほえましい。

### (2) 公立図書館と連携した学習単元を授業改善に生かす

学校図書館教育のカリキュラムとして、教員が工夫し創造した公立図書館と連携した学習単元を共有の財産と位置付け、データで保存し、授業改善を図る。組織として授業改善を図り、読書活動の質を高めていく継続的、系統的な取り組みが必要だ。学校全体で共通理解を図って指導すると、子どもたちの読む能力が向上し、言語活動の深まりが表れ、教師も指導を楽しめるという好循環になるのだ。

### (3) 司書教諭や学校司書の力を引き出し、読書推進の活性化を図る

学校司書が行っている推薦本や新刊図書のコーナー作りなど、司書教諭を中心としてが指導する図書委員会の子どもたちにも経験させる。子どもたちの読書能力の質を高めると共に、リーダーとして活躍の場を与え、全校生を巻き込んで読書を楽しませたい。

教職員全体で取り組む読書推進として、①物語に登場するメニューを給食に登場させ、図書を紹介する、②教職員が、担任する学級以外に出向き、読み聞かせをする、③学校図書館に教職員が推薦する本を展示する、④自校や



地域の歴史、昔の道具など、学習時期に合わせて展示するなどが考えられる。

このような取組を行うには、司書教諭と学校司書が連携し、年間の見通しをもって読書推進することが求められる。新学習指導要領において、学校図書館教育の重要性が増す中、研究主任や教頭、校長とも連携して学校図書館教育を充実させていきたいものである。

### 【参考文献】

- 「学校図書館ガイドライン」文部科学省（平成28）
- 「これからの学校図書館の整備充実について（報告）」学校図書館整備充実に関する調査研究協力者会議 文部科学省（平成28）
- 「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」文部科学省（平成30）
- 『読書力をつける 読書活動のアイデアと実践例 16 下巻』井上一郎編著（2002）明治図書
- 『思考力・読解力アップの新空間！学校図書館改造プロジェクト 図書館フル活用の教科別授業アイデア 20』井上一郎編著（2013）明治図書
- 『アクティブ・ラーニングをサポートする！学校図書館活用プロジェクト 掲示ポスター&ポイントシート事典』井上一郎著（2017）
- 『「読解力」を伸ばす読書活動－カリキュラム作りと授業づくり－』井上一郎著（2005）明治図書
- 『ブックワーム 芦屋っ子 本が大好き 詠みたいな 読書ノート 低学年用』芦屋市教育委員会&子ども読書の街づくり推進委員会（平成23）
- 芦屋市立潮見小学校研究紀要（平成30）